

平成25年度

創立34年



安積三小 学校だより

三しょうの丘 No.29

(承認 賞賛 奨励)

平成26年 3月14日

安積第三小学校

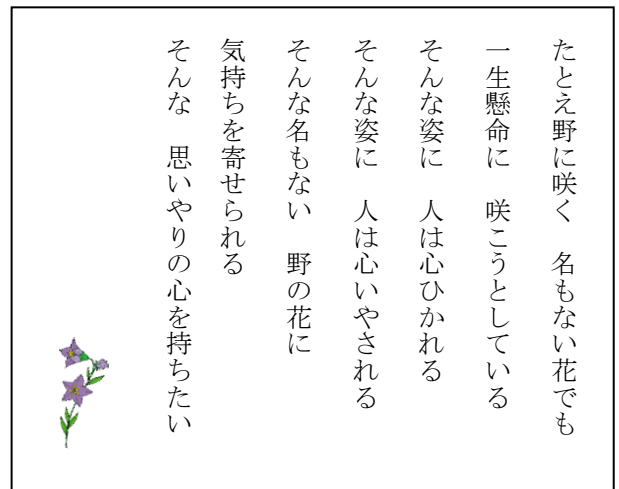
卒業式まであとわずかになりました。学校に長い間勤務していますと、数多くの出会いがあります。なかでも楽しみなのは、かつて授業や特設運動部等で共に過ごした子ども達の成長した姿を目にすることです。20代に受け持った子ども達と同窓会がありました。当時の面影を残しながら、大人になった彼らに接した時、えも言われぬ感激のようなものがあります。

「先生、僕のこと覚えていますか？」訪ねてくる卒業生がよく使う言葉です。彼らなりの照れ隠しなのかもしれません。もちろん覚えているのですが、わざと「さ、誰だったのかな？」とぼけてみせます。「またまた！」…こんなやり取りを交わすだけで、過ぎ去った時間が埋められていきます。

先日の同窓会、ある卒業生との会話が始まりました。彼は、在学中から料理人になることを目指していました。それから25年間、音信が途絶えていました。そんなある時彼がひょっこり同窓会に顔を出したのです。最初の店に勤めていた時からいろいろと辛酸をなめ、人生の無常も感じたようでした。

そんな彼も一人の子の父親になっていました。小学生の頃からは想像もできないほどの能弁さで一気に語りました。「先生、僕も親父だから、いい加減なことではできないわ。子どもに示しがつかないから」。私の心をとらえた一言です。彼なりに人生の中で多くの生きた教育を受けてきたからでしょう。私達教師がどれほど熱く語ったとしても、社会での実体験をくぐりぬけてきた人間のの前では、ただの「きれいごと」でしかありません。

小学校や中学校を巣立っていく子ども達は、私達の見えないところで、世の中、地域の人達や学校の仲間たちに鍛えられながら育てられています。そのような子ども達の育ちをじっくりと見守っていききたいものです。学校をそして先生を訪ねてくる子ども達がいる限り、私達は心の門を開けておくようにしたいと思います。



●●●●● 地域で育てられる ●●●●●

『子どもは地域で育てられる』とされています。地域には、厳しい人生を生き抜いてこられた先輩方が数多くおられます。考え方や生き方の異なる同世代の大人の方もおられます。

『地域で育てられる』ということは、そのような大人の方々から多くのことを学ぶということだと思います。時には叱られ、時にはほめられ、また時には地域の行事や活動に加わる中で、体験を通して人として大切なことや伝統・文化を受け継いでいきます。

『子どもは、親の言うとおりににはならないが、親のするとおりににはする』という言葉があります。いつの時代でも、子ども達はつらく悲しいことに耐える心がなかなか育っていません。滅入る、落ち込む体験が乏しいので当然のことかもしれません。人生には、うれしいことや楽しいこともあります、悲しいことのほうがはるかに多いのです。そんな時、身近に悲しみや喜びを分かち合ってくれる人がいたら、どんなに心強いことでしょう。よいこと悪いことすべて、大人は子どもの手本です。地域の大人の目の中で、学校では教えられない大切な“何か”を手にし、子どもたちは大きく育っていくと考えます。